

# 県P通信

令和6年度 第3号



長野県教育委員会

と

長野県PTA連合会

との



## 教育懇談会



11月12日、信濃教育会館にて長野県教育委員会と教育懇談会を開催しました。今年度は初めての試みとして、全体会での質疑応答ではなくテーマごとに分かれてグループディスカッションを行いました。どのグループもテーマに沿った考察、それに対する質問や応答、意見が活発に飛び交いました。お互いの立場を超えて大変貴重な交流の場になりました。

### 城村会長挨拶



本年度、長野県PTA連合会では先生方の学校での働き方改革を本気で応援するPTAを目指そうと旗を掲げています。

これまで子どもを守るために学校や先生方に多くの要望を行ってまいりました。今、教員の成り手不足や様々な学校現場の課題がある中で、果たしてPTAがこれまでと同じようなあり方でよいのか大きく反省し、これからは先生方に対してよりよい価値提供をできるPTAを目指して行きたいと思っています。そのために何ができるのか、その第一歩を皆様と一緒に踏み出していけるようにと願っています。学校や先生方だけに押し付けるのではなく一緒に考え、夢を語っていきたいと思います。

今日は、お互いの立場から子どもたちを愛し、未来への流れを作る実り多い懇談会になることを願っております。

### 武田教育長挨拶



現在、教育界は課題が山積んでいます。PTAは変わっていかねばならないという話がありましたが、学校も変わっていかねばならないと思っています。戦後、一斉一律の教育が行われましたが、現在は少子化やさまざまな価値観や多様な人がいる中で、今までの学校のあり方は限界に来ていると思います。目指す方向は、一人ひとりの子どもに合った学びを提供するということです。自分の学びを自由にやっている様子を見て「学級崩壊しているんじゃないか」「あんなことで力がつくのか」と学校に言う人もいます。その子なりの学びを提供するときに、学校の先生と保護者の皆さんが手を結ばないと子どもたちのためにならないと思います。

今日はPTAと学校が今まで以上にいい関係を作っていく第一歩にしたいという力強いお言葉をいただきました。それぞれの思いを分科会で話し、一緒に長野県の教育を進めていけたらと思います。





# グループディスカッション



## 第一分科会

テーマ：ICTを活用した教育



### 《問題点》

- 授業の使用目的以外での使用が多い（ゲームやSNSなど）
- 親がついていけない
- 学習が身についているか不安
- 子どものほうが使いこなしており教員の負担になっている
- 端末の活用の進み具合や使用時間に先生や学校によってばらつきがある

### 《解決策》

- 端末の使い方を家庭で話題に出す  
（使用方法を教えるのではなく話題にして家庭で一緒に学んでいく）
- ※世界ではタブレットは学習道具だが、日本ではタブレットはゲームに使うという認識になっている。
- 家庭でのルールを作る（守る守らないではなく関わりが大事）
- 新しい学びに対して不安があると思うが見守る
- 端末を使うことが目的ではなく目的を達成するためのツールとして考える

## 第二分科会

テーマ：教科担任制（小）と学年担任制（中）



### 《問題点》

- 情報の共有が難しくなる（保護者と学校、職員間など）
- 保護者が学校へ連絡する時の窓口が定まらない不安
- 保護者と学校とのコミュニケーションの不足
- 児童生徒・保護者による学校職員のランク付けの可能性

### 《解決策》

- 積極的な情報の発信  
学校側：よさの伝達や児童生徒の様子  
保護者：授業参観や行事等の感想  
SNSを利用した発信
- 勤務時間内での保護者と学校職員との懇談や支援会議
- 地域の方を交えての相談や懇談

## 第三分科会

テーマ：多様化する子どもたちへの支援  
（発達障害、外国籍、保護者対応）



### 《問題点》

- 集団として求められること、安全面で求められることが多岐にわたり難しい
- 個別で対応が異なるので、物理的（教室の確保等）が難しい
- 教員が保護者に気を使いすぎて本心で話し合うことができない
- 人員が足りない
- 教員も多様化している

### 《解決策》

- クラスの少人数制
- 教員、保護者がざっくばらんに話す機会
- 集団教員の意識改革  
教室にいなくてもよいという理解
- 保護者同士（当事者）の意見交換の場を設ける
- 「先生と保護者が対等であること、みんな違って当たり前」への意識改革

## 第四分科会

テーマ：不登校支援  
(家庭訪問、保護者対応)



### 《問題点》

- 個人情報の関係で、PTAが取り組むにはハードルが高い
- 不登校の家庭と地域をつないでいければいいが、難しい場合が多い
- 不登校児の家庭の孤立化
- 教員は親への対応が難しく、また負担が大きい場合がある
- 子どもの特性を把握することが教員にとって大変

### 《解決策》

- 学校ボランティア、教育支援センター(中間教室)の手伝いなど学校に関わる親(不登校児の親もそうでない親も)を増やし、不登校児の家庭の孤立化を解消していく
- 教育支援センターや行政のサポート、近隣のフリースクールの情報を共有していく
- 学校はスクールカウンセラーや医療機関へ適切につないでいく

## 第五分科会

テーマ：給食と食育



### 《問題点》

- 給食費の無償化に関する議論が不足している
- 食に対する感謝の気持ちが薄れてきている
- 学校で行っている食育が家庭に知られていない
- アレルギー対応への不安がある
- 朝食欠食の児童生徒への対応

### 《解決策》

- 完全な無償化は危険(感謝の気持ちが薄れてしまう恐れがある)
- 給食はただお腹を満たすものではなく「食育」の一環であることを家庭へ発信する
- アレルギー対応できるように施設の設備の改善や人材の派遣を促し、安全な給食が提供できる環境にする
- 食事は家庭が大事、給食に頼らない栄養摂取を家庭から

## 第六分科会

テーマ：高校改革



### 《問題点》

- ICTに頼りすぎると人との対話が減り、子どもたちの悩みが見えにくい
- 進路に関し、成績や偏差値を重視しすぎてはいないか
- もっと生徒同士が自由に話し合い、学ぶ内容を考えられる取組みやカリキュラムが必要ではないか
- 高校統廃合の方針や目的が、生徒・保護者・地域の方に伝わっていない
- 体験入学・学校説明会等の開催方法が、現在の形では高校の魅力が十分に伝わっていない

### 《解決策》

- ハードで補える部分とソフトの部分、教える側がしっかり理解して、生徒に寄り添った学びの機会につなげる
- 来年度から始まる新たな入試方法を実施し、今後の選抜方法をブラッシュアップしていく
- 各高校において探求の時間を増やす
- 地域のための高校ではなく、学ぶための学校という意識に変えていく
- 高校の生徒自らが中学校などへ出向きアピールする

「食」で学び舎を支える。

### よい食材でたのしい給食

長野県学校給食会は学校教育活動の一貫として行われている学校給食の円滑な実施及びその充実発展に努め、学校給食における食育の推進を支援することにより、児童生徒の心身の健全な発達及び広く県民の健全な食生活の実現に寄与することを目的としております。

学校給食物資は、主食と副食がありますが、本会では、主食の原料となるコメや小麦粉を仕入れ、炊飯やパンの加工工場に製造を委託し、県下の各学校へお届けしています。副食については、缶詰、乾物、ハム、冷凍食品などの物資を供給しています。また、食育支援事業として、県産物を活用した献立コンクール、レシピ集の発行、パン審査・品質向上研修会などを実施しています。これまでに、関係機関と共同で、県産物を活用した商品も開発し供給しています。



## 第七分科会

テーマ：部活動の地域移行



### 《問題点》

- クラブ活動場所への送迎ができない保護者がいること
- 従来の部費以外に、指導者への謝金が必要になること  
またその金額がどのくらいなのかが不明なこと
- 地域の受け皿作りに市町村によって差がある
- 不足しているであろう指導者を、どう確保するのか？

### 《解決策》

- 送迎できる保護者同士が協力し、乗り合いするなどお互いに助け合う
- 地域クラブへ移行する趣旨を説明し、継続可能な地域クラブ運営のための適正な会費の納入などの理解を求める
- 地域クラブなどへの移行進捗の確認や保護者ができることを、自治体や保護者、地域の方で集まり対話を重ねる
- 県で作成している「信州地域クラブ活動指導者リスト」を活用し、登録にも協力する

## 第八分科会

テーマ：保護者と教職員の  
PTA未加入



### 《問題点》

- 事業に参加したり、役員をすることへの保護者の負担感、先生方の負担感の増加
- コロナ禍を経て、PTA事業の縮小や他者との関わり方の変化、全員加入からの変化
- 保護者同士や、先生と保護者との関わる機会が減ってしまい一体感が低下している
- 子どもたちのためのPTA活動はメリット・デメリットで活動をするものではないが、時代の変化で加入のメリット・デメリットがだけがクローズアップされている
- PTA解散校の前例によりPTA組織が無くてもいいという意見がある  
近隣校に影響されている

### 《解決策》

- PとTが連携し、よい運営をしている好事例校を紹介する
- PとTがお互いの考えや思いを知る機会を設ける  
お互いのできること、力になれることはどんなことなのか話をする
- 保護者同士、先生方が互いに対話を重ね、お互いの立場を尊重して理解し合う

## 武田教育長の総評

冒頭は教員の働き方改革にPTAの皆さんが本気で協力していただけるというお話からスタートし、PTAの未加入にどう対応していくのか、という話もありました。ひとつ「対話」というのがキーワードです。校長会や教育委員会、PTA联合会との対話。もうひとつ、保護者同士が対話をしていくことだと思います。

子育てには、正解がありません。うまくいっていないと感じる要因は二つあります。ひとつは親の思い通りにいかないこと。もうひとつはほかの子と比べること。その子がその子らしく生きて行くために、その子にとって何がいいかということに対話してほしい。

損か得かの価値観で考えすぎていると、子どもたちは自由にならないし私たち大人も豊かにならないと思います。損か得かではなくPTAの本当の意味がわかるように、対話を広げていくスタートの日にしていただきたいと思います。

# 令和5年度 国内研修事業 in 渡嘉敷村



日本PTA全国協議会は、沖縄県の青少年施設を利用し、全国の中学2年生を対象とした国内研修事業を開催しました。令和5年度は101名が参加しました。

5日間のプログラムを通して、子どもたちは自分で考え行動し、さまざまな事を学んできました。

長野県から参加した2名のレポートを紹介します。



## 沖縄でできた一生の思い出 大橋 真衣

私は令和5年度の国内研修旅行で沖縄の渡嘉敷島に行きました。沖縄できれいな海を見てみたい、沖縄の自然が豊かな理由を知りたいと思う反面、知らない土地で、親元を離れ、初めて会う仲間たちとの生活など、たくさんの不安を抱えながらこの研修に参加しました。この研修で印象に残っていることが3つあります。

1つ目は、人の温かさです。私たちはこの研修でたくさんのプログラムを行いました。琉球古典音楽を聴いたり、エイサー、慶良間太鼓を体験させてもらったり、沖縄戦争や珊瑚の話の話を聞かせてもらったりしました。他にもこの研修のプログラムを完成させるためには、たくさんの人の協力がなくてはいけないことがたくさんありました。私たちの研修のために協力してくださった方々の温かさに触れることができました。

2つ目は、全国の仲間との交流です。住んでいる土地が違う仲間と仲良くなれるかとても心配でした。けれど、班行動を共にし、話をしたりするうちに、とても仲良くなることができました。また、優しく、性格がよくて、温かい沖縄の大学生の班付リーダーとも仲良くなることができ、今では思い出だけで会いたくなる一生の友達になれたと思います。

3つ目は、沖縄の自然の豊かさです。私たちは渡嘉敷島の透き通ったきれいな海でスノーケリングをしました。いろいろな色の珊瑚やたくさんの魚に出会うことができました。そして少しでも人が珊瑚に触ってしまうと珊瑚が死んでしまうということを知りました。たくさんの方が海で泳いでも、珊瑚が今まで死なずに残っていることに驚きを隠せませんでした。自然が保たれている理由は、沖縄の人たちのサンゴ礁を守るための工夫や努力であると知ることができました。

私は国内研修旅行で一生の思い出、友達を得ることができました。最後に、私たちの研修のために協力してくださった方々、本当にありがとうございました。



## 国内研修に参加して 白井 久彦

沖縄に行くのは初めてで、また知人が一人もいない団体旅行への参加は、不安でとても緊張していた。終わった今は、貴重な体験ができてよい思い出になったと思う。新たに知った3つを紹介したい。

1つ目は、実際に行っている体験は、ほかの方法では得られない成果があることです。南国沖縄は、気温が高いと知っていたが、3月なのに半袖半ズボン姿、何も掛けず寝るとは長野育ちの僕には「まさか」だった。全国から集まった中学生が各地の方言で語り合うのは愉快で楽しくて、時間を忘れてしまった。気候の違いや方言での会話は予想を上回る驚きでした。

2つ目は、海洋研修を受けて初めてサンゴ礁にふれ、エメラルド色に輝く海には、カラフルな魚が泳いで素晴らしい自然を体感できたこと。沖縄は、美しい海の自然を保護しながら観光資源として地域の活性化を図っていることが理解できた。僕の住む長野は、素晴らしい山の自然を守りながら観光に生かす努力をしているのだと思う。

3つめは、国際交流プログラムで、望月さんの講座で聞いた「世界平和、戦争、紛争、難民について」が心に残った。今、世界には、戦争、紛争のために故郷を追われ家族と離れて暮らす難民がたくさんいるという。僕たちがこうして当たり前生活ができるのはとても幸せでありがたいことなのだ。難民の生活にあてはめて考えようとしても、あまりに違いすぎて想像できない。平和な世の中はどのように作れるのか考えていきたい。

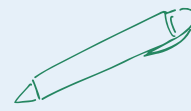
国内研修の企画に参加ができて、たくさんの人と楽しく交流、体験できたことを、いつまでも大切にしていきます。

信州の牧草を食べて  
信州の酪農家の愛情いっぱい育てた牛の牛乳を  
信州の人が飲んで育つ  
わたしはメイドイン信州100%



わたしはメイドイン信州





令和6年11月16日に山ノ内町文化センターにて、第21回信州“教育の日”山ノ内大会が行われました。この大会は毎年11月の第3土曜日に、信州“教育の日”実行委員会が主催し長野県PTA連合会は毎回参加しています。

開会セレモニーにおいて、三行詩コンクールで入賞された3名への表彰を行いました。受賞者の皆さんや家族のかたにお話をうかがいましたが、自身の考えを力強く話す姿に家族と過ごす時間の大切さを改めて感じました。

4つの分科会では、地元の高中生や小学校の保護者、地元企業の面々や地域おこし協力隊の方など、年代や職業もさまざまなみなさんの発表がありました。「わが町で 共に育ち学ぶ こどもとおとな」と題した大会は、山ノ内町ならではの郷土愛あふれる内容で、心に残る1日となりました。



三行詩コンクール受賞者のみなさんの喜びの顔



分科会の様子

会場では、地元小学生が育てたブランド米《雪白舞》と小学生が考案した具材で作った「結（むすび）や」のおにぎりや、中野西高校ESD珈琲倶楽部によるオリジナルブレンドのフェアトレードコーヒー、飯山養護学校高等部の生徒（農耕班、陶芸班、手芸班）の作品などの販売もあり、子どもたちも参加した和やかな学びの場となりました。

閉会セレモニーでは、振り返りショートムービーの上映や参加者全員での「信濃の国」の合唱で、会場全体が一体となる感動を味わえました。心に染みる素敵な時間をありがとうございました。

来年は松本市での開催が予定されていますので、ぜひ皆さんも参加してみたいはいかがでしょうか？三行詩コンクールへの応募もお待ちしております。



「雪白舞」で作ったおにぎり



長野県民だけがひいきされる

## 長野県県民限定

ホテル予約サイト /

### 温泉ぱらだいす信州

全プランが県民限定のお得なプランを掲載

## シャトレーゼ

### ガトーキングダム小海

おすすめプラン

お申込期間 2025年 4月25日(金)まで

料金 大人1泊2食付き2名1室お一人様

通常より **20% OFF** **13,200円** 税込

朝夕ホテルビュッフェ& ウェルカムスイーツプラン

お申し込みはこちらから

シャトレーゼならではの! ウェルカムスイーツビュッフェが自慢!

長野県観光機構 // 温泉ぱらだいす信州

県内4地区を代表する単位PTAの実践報告を紹介します。ぜひご覧ください！

南信

PTAがつなぐ  
紙資源のリサイクル推進活動

駒ヶ根市立赤穂南小学校PTA



中信

「ひろおか奨善塾」による  
地域とのつながりの深化

塩尻市立広丘小学校PTA



東信

PTAの存続とこれからの可能性

軽井沢町立軽井沢西部小学校PTA



北信

「居心地のよい」PTA活動の条件

～100周年記念事業および  
犀北ブロック協議会を事例として～

長野市立山王小学校PTA



## 広報紙コンクール 表彰式

長野市立松代中学校PTAの広報紙「MATSUSHIRO PTA PAPER」が全国日本小・中学校PTA広報紙コンクールで**文部科学大臣賞**に選ばれました。東京都内で行われた表彰式、長野市長と長野県教育長への表敬訪問の様子と、喜びの声をお届けします。

この度は「MATSUSHIRO PTA PAPER」が栄誉ある賞をいただき大変うれしく思います。

生徒や先生、保護者、地域の方、日頃から学校を支えてくださる方々など総勢106名の皆さんの写真&インタビューの取材協力の下、松代中学校の魅力や活気ある活動が多くの方に届けられたことは喜ばしい限りです。

ライブ感のある情報誌スタイルが多くの方から反響をいただき、学校・家庭・地域を繋ぐコミュニケーションが生まれるきっかけになったことは嬉しい事ですし、何より創立70周年プロジェクトが本当に素晴らしかったと思います。

令和5年度 長野市立松代中学校PTA広報部長 成澤 昇次郎



秋山校長先生と成澤さん

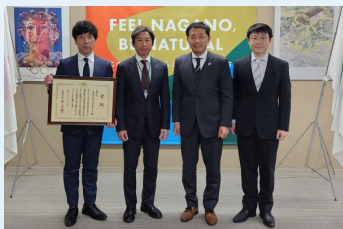
11月4日松代城本丸内で開催された“つなぐつなぐプロジェクト”で「MATSUSHIRO PTA PAPER」が文部科学大臣賞を受賞したことを報告。あわせて、生徒が創立70周年記念ソング2曲と記念Tシャツを披露した。

福祉部で見学・取材させていただいた第二給食センターにもご報告。電話の向こうで歓声が上がった。

令和5年度広報部員の偉業に心から敬意を表したい。学校サイドからは、決してこんなにもおもしろおかしく「松中のコト、PTAのコト、知ってほしいコト」を表現できないと思う。

保護者や地域の方が手に取って何度も見たくなる秘密が隠されている。

長野市立松代中学校校長 秋山 昇



信  
— Shin —  
信州発「信頼」のその先へ  
信教印刷株式会社  
本社/〒381-0022 長野市大豆島東沖4321 電話026-222-5222 026-251-1770  
営業所/〒174-0051 東京都豊島区小豆沢2丁目20番24号(加印刷株式会社内)  
電話03-5970-9416 03-5970-9414  
<http://shinkyō-p.com/index.html>

### 広報紙コンクールの作品を募集します！

皆さんの学校の広報紙をコンクールに応募してみませんか？  
令和6年4月から令和7年3月発行の広報紙が対象です。  
印刷物は各号**6部**づつ、WEB版はデータでの応募となります。  
募集期間は令和7年3月末まで！

他の学校はどうやって作っているの？  
広報紙って何を載せたらいいの？

そんな疑問もふくめ、コンクールの詳細は県PTA事務局まで  
お気軽にお問合せください。

問い合わせ先→

発行・編集  
長野県PTA連合会  
情報発信部

住所  
長野市旭町1098  
信濃教育会館内  
TEL  
026-235-4361

MAIL  
office@pta-naganoken.net